

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

June / 12 / 2015 # 27

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『楽器購入について』

[2] Pepeのひとりごと

『ヴィブラート』

[3] おすすめ動画

『Black Dyke Trombone Quartet - Celebration』

『Leonard Paul:Hungarian Schnapsodie , Kiss Zoltán & Corpus Trombone Quartet』

[4] 演奏のヒント！

『音量変化』

[5] 編集後記

[1] 旬な話題、気になる話題

『楽器購入について』

この時期、新しい楽器を購入する人も少なくないと思います。楽器は高価なものですから、購入する際にはいろいろなことに気をつけたいですね。

僕のバンドでも、メンバーが2人新しい楽器を購入しました。金管楽器は僕が選定を手伝ったのですが、これがあるのとないのとでは

全く変わってくるので、新しい楽器を購入するときは、ぜひ近くの専門の人に相談をして買うようにしましょう。

楽器は、全く同じモデルの楽器でも1本1本全く違います。

これは実際に吹き比べてみるとすぐにわかります。

必ず自分で吹いてみてくださいね！

そうすると、きっとあなたの音楽生活の良きパートナーとなる楽器と出会うことができるでしょう。

今はインターネットで楽器が簡単に購入できる時代です。

その場合はその便利さを取るために犠牲にするものの存在を必ず考えるように。

僕が選定をする場合は、まずいろいろなモデルを吹いてもらって、その人がどのようなタイプの奏者なのかをみます。

それからその人に合うタイプのものをこちらから伝え、それらの楽器をもう一度吹いてもらって本人にもそのことを認識（&納得）してもらいます。

（このときに吹くものは、その人や楽器によって異なってきますが、場合によってはアクセントでハッキリと、場合によっては滑らかに音階を、など様々です）

よく「この楽器の音に惚れた！」や「この楽器の音が一番好きだったので」という理由を聞くことがあるのですが、僕はこれにはちょっと同意しかねます。

アマチュアで趣味でやる人にはこれで全く問題ありません。

アマチュアで趣味として吹いている人は、その理想の音を手に入れるために楽器を買うし、そのためにお金を支払うのですから。：)

しかし、専門で音楽演奏家としてやっていこうとしている人は、こういう基準で楽器を買うことはよくないと考えています。

楽器の音は、自分の声です。

自分の声や話し方は、成長とともに変化していきます（変化しないとイケません。いつまでも子供のような話し方だとダメでしょ？）。

専門でやっていこうとしている人が楽器を買う場合は、すべてのこと（パツと思いつくアーティキュレーション全てとすべての音域と音量）がやりやすい楽器を絶対条件として必ず入れるようにしてくださいね。

その上で、音の出方の好みや音色の好みを付け加えるようにしましょう。

「音色は最高にいいんだけど、低音の発音が曖昧になりがち・・・」
みたいな楽器は選ぶべきではありません。

同じ金額でも全く違う楽器があります。
みなさんがいい楽器と出会えますように！！

[2] Pepeのひとりごと

『ヴィブラート』

先日、講習会でヴィブラートに関する質問を受けました。
それ自体は全く珍しくないことなのですが、質問が

「先生に【そこはヴィブラートをかけて吹きなさい】と言われたのですが、
ヴィブラートのかけ方を教えて下さい」

というものでした。

この質問を聞いて、とても悲しかったです。 :(
こういう状況は、とても残念な状況だと僕は思っています。

どうしてかというと、これは「ヴィブラートをかける」ことが目的と
なっているからです。

これは顧問やバンド指導の先生に問題があるのですが、どうして
ヴィブラートをかけて欲しいと思っているのか、ヴィブラートを
かけると今の演奏からどのような変化が出るのか、どのような演奏を
してもらいたいためにヴィブラートが必要だと感じているのか、
それらを具体的に、かつしっかり生徒たちに理解をさせておかないと、
ヴィブラートだけをかけるように演奏をしても、指導者たちの思っている
演奏にはなりません。

ヴィブラートのかけ方自体は、金管楽器においては全く難しいことでは
ありません。でも、どのような曲想の時にどのようなヴィブラートが
いいのか、あと奏者が自分からかけたくなる（かけてしまう）フレーズを
作ることをもっと学んでいかないといけないと思います。

もし読者の中にヴィブラートについて悩んでいる人や練習している人が
いれば、ぜひそのあたりのことをもっともっと考えてみてください。

あとは、自分の楽器だけにかぎらず、いろいろな楽器や演奏家で
いろいろな曲を聴いてみましょう。
聴いたフレーズが多ければ多いほど、自分の引き出しは増えていきますよ。

好きなものも好きではないものも、この世にある音楽をたくさん聴いていきましょう！そうするとヴィブラートについては自分なりのやり方が自ずと出てきますよ。

ちなみにこの講習会の時は、僕がいろいろなヴィブラートをかけてひとつのフレーズを吹いてみました。

そして、「ヴィブラートをかけて吹きたい」と一言で言ってもこのくらいの種類があって、このどれも「ヴィブラートをかけて吹いている」というみんなが望んでいる結果です。と説明しました。

「最初の質問だと、このどれもが答えになるけどそれでもいいのかな?? 聴きやすいものと下手に聴こえるもの、きれいに聴こえるもの、あのよう吹いてみたい!と思えるものなどいろいろあったよね。この中からどのようなものが吹きたいのかを明確にしてからフレーズ作りを試みましょう。ヴィブラートをかけることが目的とならないように!」

と説明をして終わりました。

「ヴィブラートをかけて吹くように!」というような乱暴な指導をする人が少しずつでも減っていきますように。

[3] おすすめ動画

『Black Dyke Trombone Quartet - Celebration』

<https://www.youtube.com/watch?v=o-mgyE0sf0I&index=2&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg>

今月の動画は、Trombone Quartetを2つ。

一つ目は、イギリスのブラスバンド、Black Dyke BandのTrombone セクションのアンサンブルです。

なかなか聴く機会のないアンサンブルですね。

ブラスバンドは、金管楽器と打楽器のみでいろいろな曲を演奏するため、とってもハードな曲を常に演奏しています。

そのためか、この動画を見てもスライドの動きがとても速くて気持ちいいですね～（笑）。

普段もっともっと速いパッセージを吹いているので、とても簡単そうに聴こえるし見えます。

Tromboneを演奏しているみなさん、スライドは常に速く動かすよう心がけましょうね!!（「早く」ではないですよ!!!）;

『Leonard Paul:Hungarian Schnapsodie , Kiss Zoltán & Corpus Trombone Quartet』
<https://www.youtube.com/watch?v=pphSuv-xJxM&index=1&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg>

2つめの動画は、僕の友達でもあるハンガリーのCorpus Trombone Quartetと、Mnozil BrassのTrombone奏者、Zoltan (Kiss氏) の演奏です。

曲はZoltanの持ち曲である「Hungarian Schnapsodie」。:D
これがTrombone Quartet伴奏版の初演です！

Zoltanもすごいけど、後ろ（伴奏）でもよく聴くとすごいことをしてます（笑）。

ああ、僕もいろいろなアンサンブルやりたいなあ。:)

[4] 演奏のヒント！

『音量変化』

そろそろ吹奏楽コンクールの準備も本格的になってきていると思います。

演奏曲も決まり、やる気は十分かな??

特にコンクールでは、縦のタイミングや音程、音色の統一感などが優越の比較の対象になりやすいですよ（知ってましたか?）。

・・・このくらいでしか音楽で優越は付けられませんし（笑）。
じゃないと曲や演奏の好き嫌いが判断に影響を出してしまいますからねえ。

その比較基準のひとつに、音量の差もあります。

大きな音と小さな音をコントロールすることですね。

これは、ある程度の技術がないとうまくできないことなので、コンクールなどでは特に大切な要素の一つとなります（吹奏楽だけではなくソロのコンクールでも然り）。

今日はこの音量変化の中からクレッシェンド、ディミニユエンドについてのちょっとしたコツを書きます。

みなさん知っているとは思いますが、クレッシェンドは「だんだん音量を大きくする」、ディミニユエンドはその逆で「だんだん音量を小さくする」という意味ですね。

これらを演奏するとき、ほとんどの人がこの意味のとおり「だんだん」音量を変えていっていると思います。

そこで、（特にある程度の時間をかけてクレッシェンドや
ディミニユエンドをする場合）一度これらを段階的にやってみて
ください。

例えば、6拍かけてする場合に2拍ずつ音量を変えていくのです。

まだ楽器を吹き始めて間もない人にはそれをする事自体が難しいかも
しれませんね。

2拍ずつしっかり段差をつけるような感じでやってみましょう。

そうすると、だんだん大きくなっているように聞こえてきませんか？
たとえ音量変化に段差があったとしても、これも「だんだん音量が
大きくなっていく」ことに違いはないですよ（笑）。

クレッシェンドは、「だんだん【滑らかに】音量を大きくしていく」
という意味ではありません。

だんだん大きくなればいいのです。 ;)

あと、こうすることによってクレッシェンドの内容をコントロール
しやすくなります（もちろんディミニユエンドも同じ）。

何拍目にどのくらいの音量にしておくか、というコントロールが
うまくできるようになれば、音楽表現の幅も広がっていきますよ。
吹奏楽などの大人数で演奏する場合には特に、このタイミングを
合わせることによって効果が一回り大きく出るでしょう。

ぜひやってみてくださいね！！ :D

編集後記

今回はすべてが長くなってしまいました・・・。
長くなる内容が重なってしまったのかな？

もう少しコンパクトにまとめられればよかったのですが、
なかなかうまくできません（涙）。
うまく伝えたいことが伝わるといいなあ。 ;)

「ひとりごと」が「演奏のヒント」のようになってしまいましたが、
ひとりでも多くの人役に立てば、と願っています。 ;)

思っていた以上に5月、6月と慌ただしく過ごしています。
みなさん、体調には気をつけてくださいね～！

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールどうぞ！

info@pepeabe.com